

第8期西蒲区自治協議会から第9期への引継書（保健福祉部）

1. 提案事業の概要について

令和3年度「冊子の作成・配布」	令和4年度「講演会」
地域福祉の観点から、暮らしの中で困ったと思った際の場面・事例を掲載し、相談先や制度がスムーズに市民に分かるよう配慮工夫した冊子「はじめての福祉相談きっかけBOOK～住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために～」を発行。	医学博士加藤俊徳氏を講師に「年をとっても脳が元気になる～認知症をくいとめる10カ条～」と題した、脳医学の観点からの認知症予防に関する講演会を行った。

2. 提案事業の実施による効果について

令和3年度「冊子の作成・発行」	令和4年度「講演会」
各施設に設置を依頼し、家庭訪問などを行う際に配布・依頼したことで、より必要な人の手に渡る機会ができ、様々な形で活用していただけることが期待される。	アンケート結果から、参加者の95%から満足以上の評価をいただいた。また、参会者の声から講演内容を早速実践するなどの声が多くあり、認知症予防に対する啓発が図れたと思われる。

3. どのような課題が残っているのか

<ul style="list-style-type: none"> ①より多くの方から聴講・学習していただく手法。 ②若年層の参加を促すための手法。 ③脳以外（足・腰、食生活など）での予防策。 ④認知症患者の権利擁護。 ⑤地域で認知症を理解し、助け合い・支え合う環境作り。
--

4. 実施してきた取組を次のステージに進めるためにはどのような取組が必要なのか

<ul style="list-style-type: none"> ・第8期では、高齢者支援の観点で取り組みを行った。 ・その結果、一人ひとりが、それぞれの立場で、役割を持ち、助け合いながら暮らしていくことができる仕組みを作ることが大切との意見が多くあった。 ・第8期の取り組みが、更なるステージに向かうために次の点を引き継ぐ。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>《第8期から第9期への引き継ぎ事項》</p> <p>人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らすことができる地域・社会を創る「地域共生社会」の実現を目指す取り組みが必要と考えます。</p> </div>

《具体的に》

- ①認知症などの病は、誰にでもなりえることを理解してもらい、早い段階でいざという時への心構えを持ってもらう取り組み。
- ②家族・地域・関係機関などがそれぞれの立場で役割を持ち、助け合っていくことを醸成する取り組み。



《具体的に》を実現するため、第8期からの意見・提案

(意見1) 脳医学以外で、別の角度から予防策などの講演会・セミナーを行う。

(提案1) 上半身・下半身の鍛え方や、食生活からの予防策を学んでもらう。

(意見2) 認知症になった時への備えに対する取り組みが必要。

(提案2) 司法書士などを講師に権利擁護に対するセミナーの開催。

(意見3) 地域で認知症に対し理解を深め、助け合い・支え合う地域づくりを行うための取り組みが必要。

(提案3) 助け合い、支え合う地域づくりを醸成するため「(仮称) ボランティアの日」を西蒲区独自で設定し、一人ひとりができる範囲で支援活動や、ボランティアに関する啓発活動などを行う。

(意見4) 若年層が認知症問題に向き合ってもらう手法の検討。

(提案4) 認知症サポート講座を受講した中学生に対し、受講後どのような取り組みを行ったかなどをアンケート調査する。

(意見5) 誰もが参加しやすいような環境作りを行う (ICT 活用)。

(提案5) オンライン講演会の開催。ただし高齢者の支援が必要。

(意見6) 子どもと高齢者が一緒に活動する機会を作ることが必要。

(提案6) 年代を問わず交流できる場所づくりをする。これにより、高齢者が、いつまでも元気でいられ、また、地域内の世代間交流が進み、何かあった時の対応に繋がる。

(意見7) 常に最新の福祉に関する情報を区民に提供する。

(提案7) 提案事業で作成した「はじめてきっかけBOOK」などの冊子が常に最新のものになっているか確認し、区に修正するよう提言する。

保健福祉部会提案に基づく協議事項

各常任部会にて、全体会で協議したいテーマについて検討していただきました。
結論を出すことを目的にしていませんので、積極的にご発言いただければ幸いです。

表題・テーマ	(仮称)ボランティアの日の制定について
内 容	<p>保健福祉部会では、第9期への引継ぎ事項を地域共生社会実現に向けた取り組みとした。</p> <p>その取り組みに対する意見として、</p> <p>ある日を<u>ボランティアの日</u>とし、地域・個人など、一人ひとりが、地域のため、住民のためになることを、小さなことなど、何でも良いので自分でできる範囲で考えてもらい、行動してもらいたい日として考えた。</p> <p>一人ひとりが、「ためになること」を考え・行動することで、地域共生社会の実現に一步踏み出すと期待している。</p> <p>これを実現するため、次の事項について意見を伺いたい。</p> <div data-bbox="391 1288 1444 1792" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"><p>①ボランティアの日を制定するにあたり、その啓発方法</p><ul style="list-style-type: none">・効果的な啓発方法はどのようなものか。<p>②ボランティアの日の活用方法</p><ul style="list-style-type: none">・単に日を設定し終わりではよいものか。・行政・自治協がどのように関わっていくか。<p>(例)「●月●日はボランティアの日です」とメッセージを発信</p></div>